

リュツォ・ホルム湾の海氷状況について

2016年11月

国立極地研究所・南極観測センター

①海氷状況監視体制（第57次越冬隊および極地研究所）

- ・MODIS可視／赤外画像（TerraおよびAqua衛星） ← 目視イメージ・表面温度
- ・AMSR2画像（GCOM-W衛星） ← 海氷密接度
- ・SAR画像（ALOS-2およびSentinel-1衛星） ← 表面状態
- ・第57次越冬隊による目視・空撮観察
- ・昭和基地気象および潮汐データ ← 風・波浪

②2016年7月以降の状況

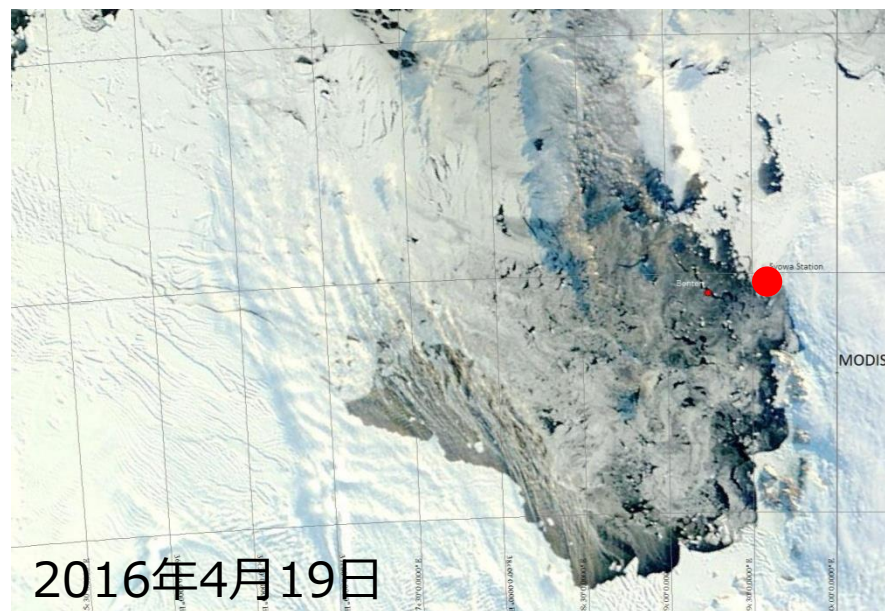
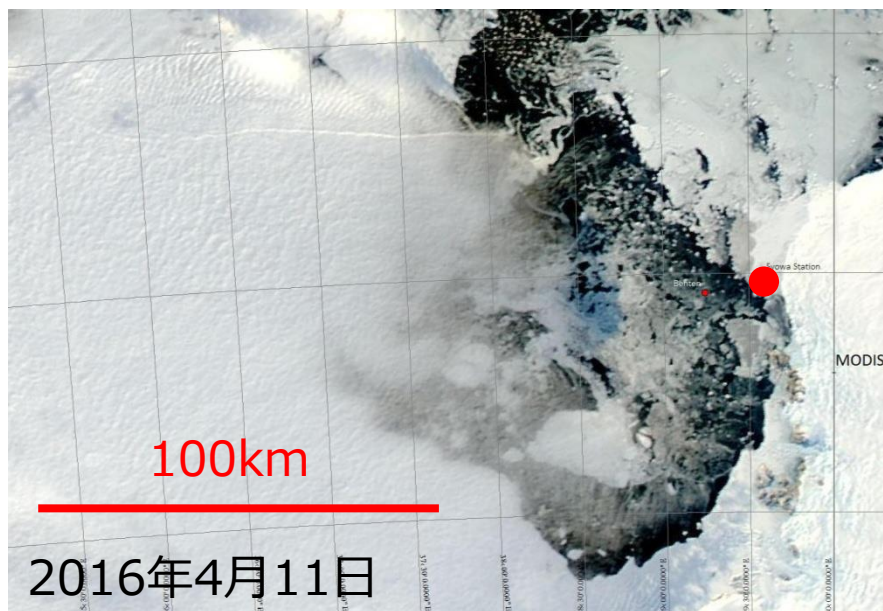
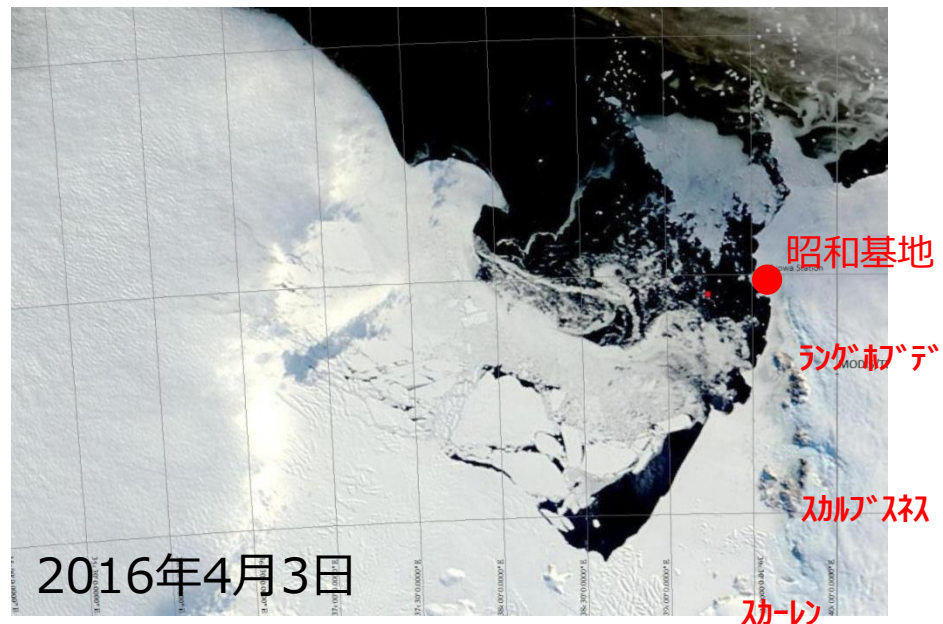
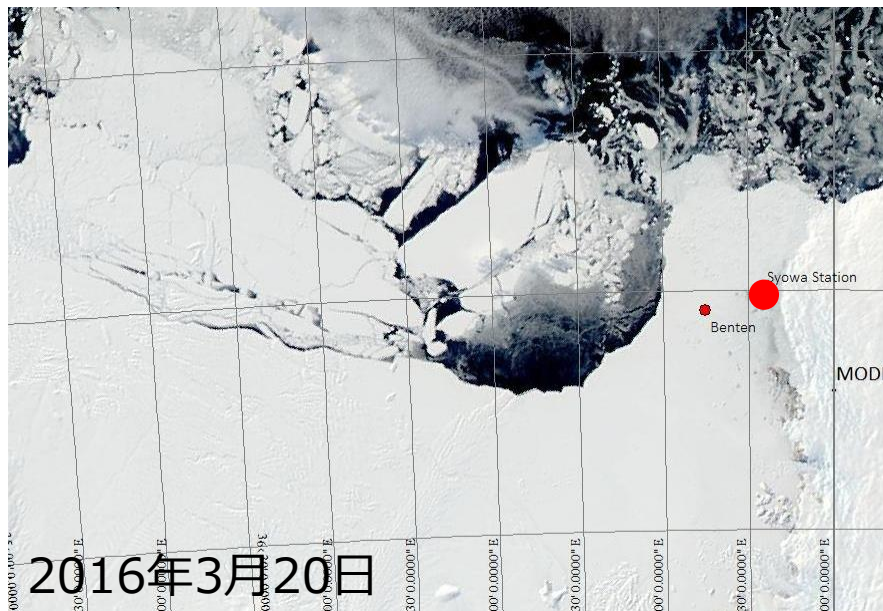
【リュツォ・ホルム湾】

4月の流出イベントの規模には及ばないが、7月下旬および8月中旬に、南端はしらせ氷河末端付近、東端はラングホブデおよびスカルブスネスの海岸線に達する割れ込みが生じた。8月下旬以降は、定着氷縁付近において小規模割れ込みが発生している。

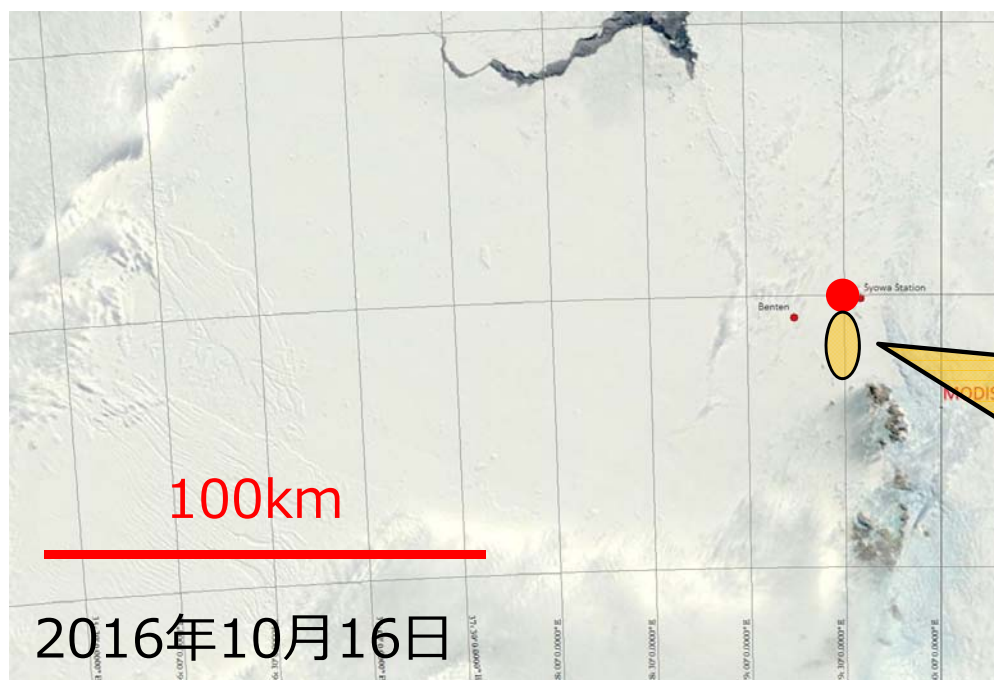
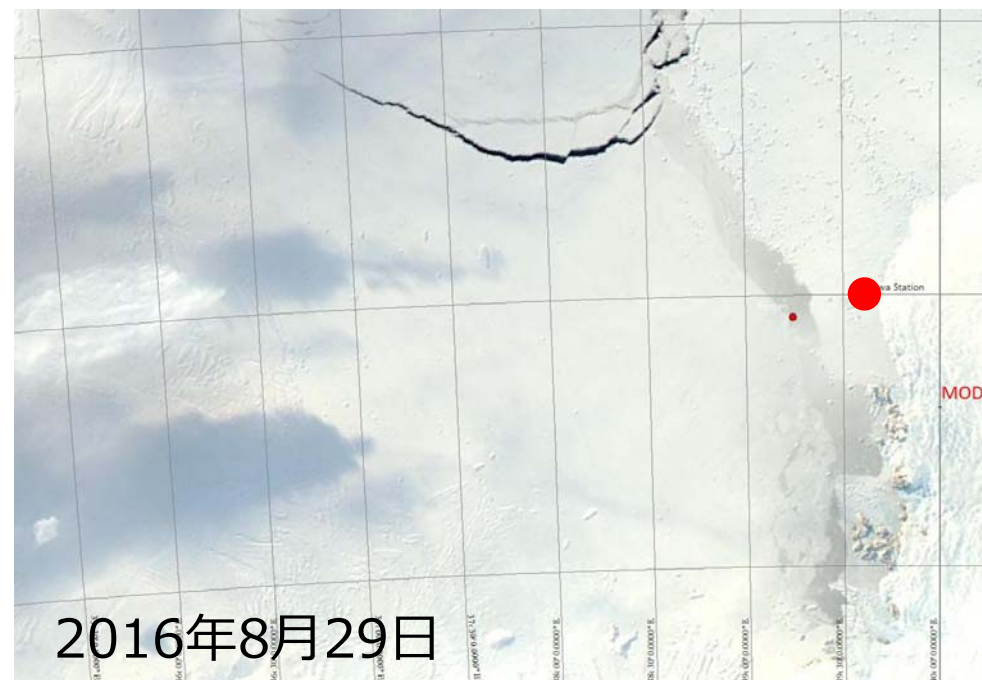
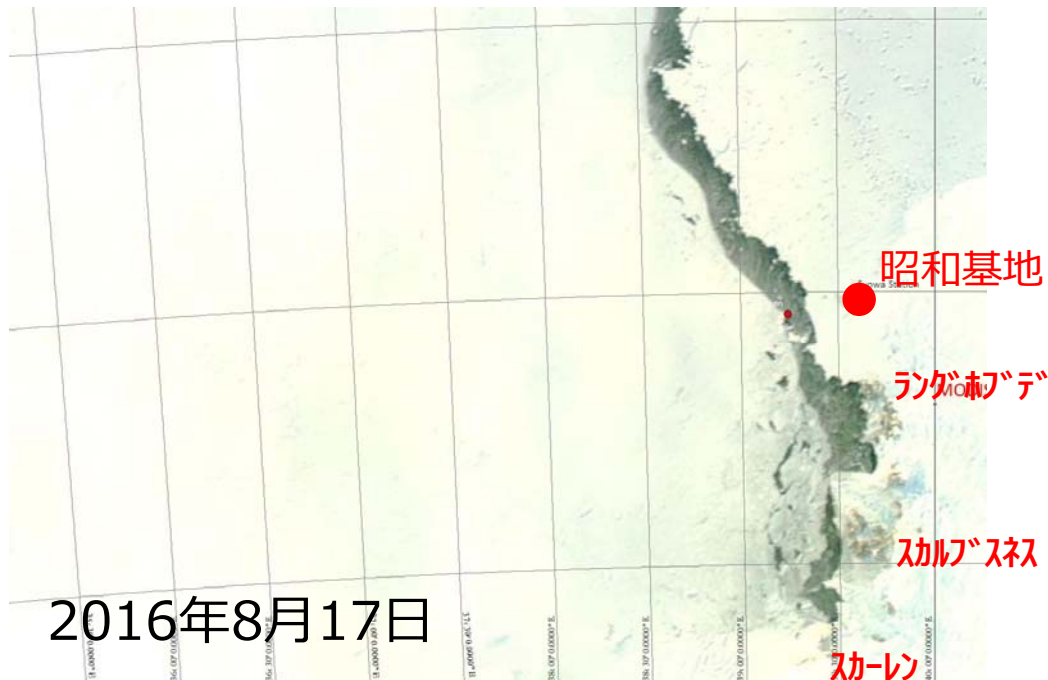
【オングル海峡】

4月末に見晴らし岩から北東方向の大陸末端にかけ、その南側の海峡全域が開放水面となった。5月末に再度開放水面となったが、それ以後、新たな流出はなく安定している。

可視(MODIS Terra/Aqua)画像 ※3月~4月

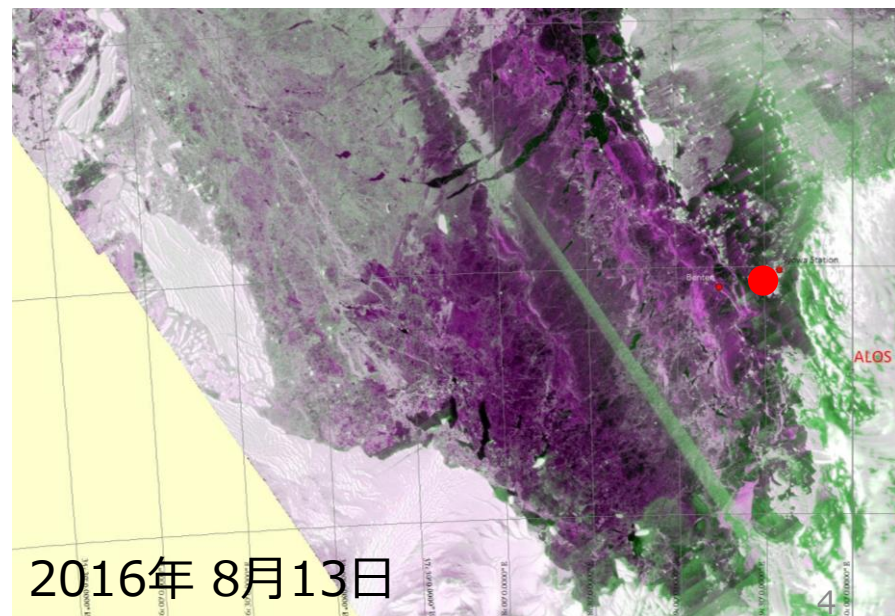
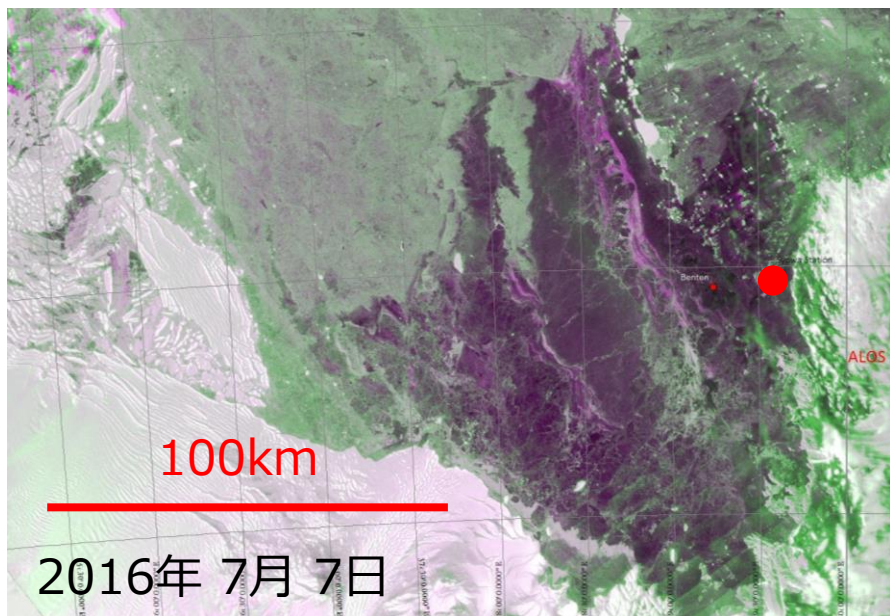
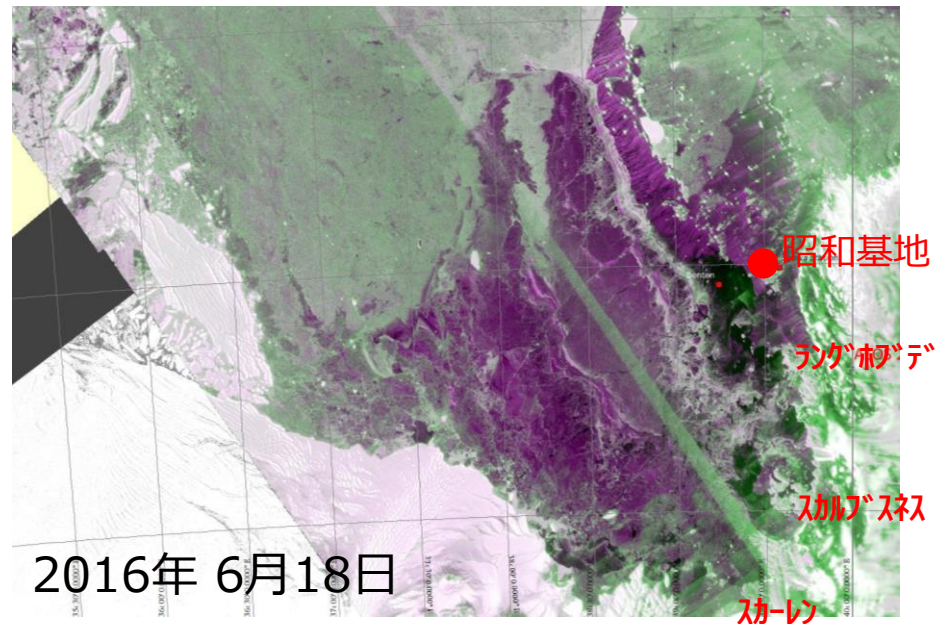
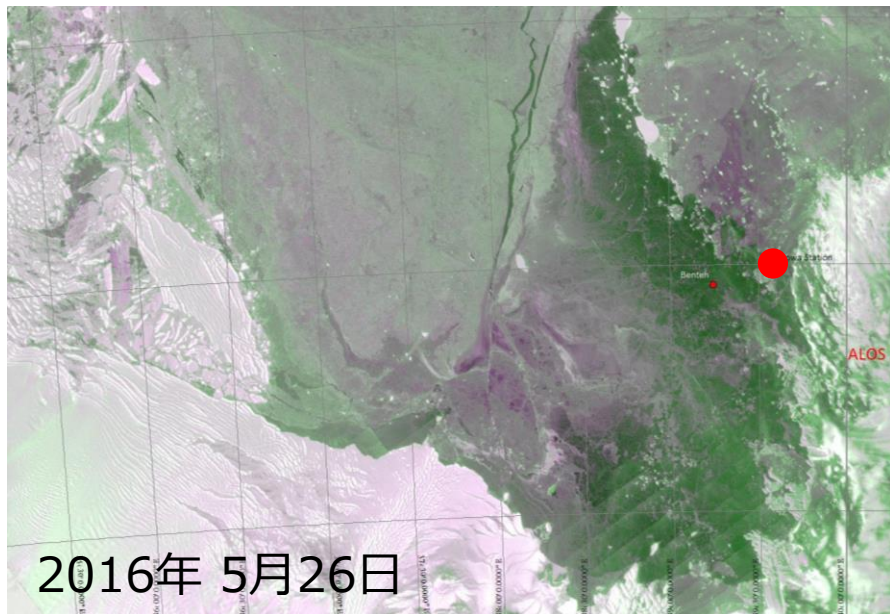


可視(MODIS Terra/Aqua)画像 ※8月～10月



昭和基地からラングホブデにかけての海域は、5月末以降に結氷が進んだ。57次越冬隊による9月末の調査によると、氷厚は平均して約75cmである。

レーダー(ALOS SAR)画像 (広領域) ※表面状態の違いを反映



2016年4月27日 昭和基地空撮パノラマ画像



2016年8月30日 昭和基地空撮パノラマ画像

